

2026年度計画

中東情勢の影響

■ 2025年度への影響

- ・現時点で原油供給リスクの高まりに起因する生産への影響はなし
- ・受注には制限をかけておらず、納品の大幅な遅れもなし

■ 2026年度の影響見通し

- ・溶剤等、一部資材の調達環境が悪化し、生産への影響が発生するリスクあり
- ・資材費の高騰により、利益にマイナスインパクトとなる可能性あり

- ・中東情勢による影響は依然不確実性が高く、現時点では影響額を精緻に見積もることは困難
- ・業績予想には当該影響を織り込まず、重要な変化が生じた場合には速やかに開示

連結損益 2026年度 計画

[単位: 億円]	2025年度 実績	2026年度 計画	2025年度比	
			増減額	増減率
売上高	4,703	5,000	+297	+6.3%
国内	1,986	2,050	+64	+3.2%
海外	2,717	2,950	+233	+8.6%
海外比率	57.8%	59.0%	+1.2pt	—
営業利益	505	505	△0.3	△0.1%
営業利益率	10.7%	10.1%	△0.6pt	—

*増減額の表示桁数以下、切り捨て

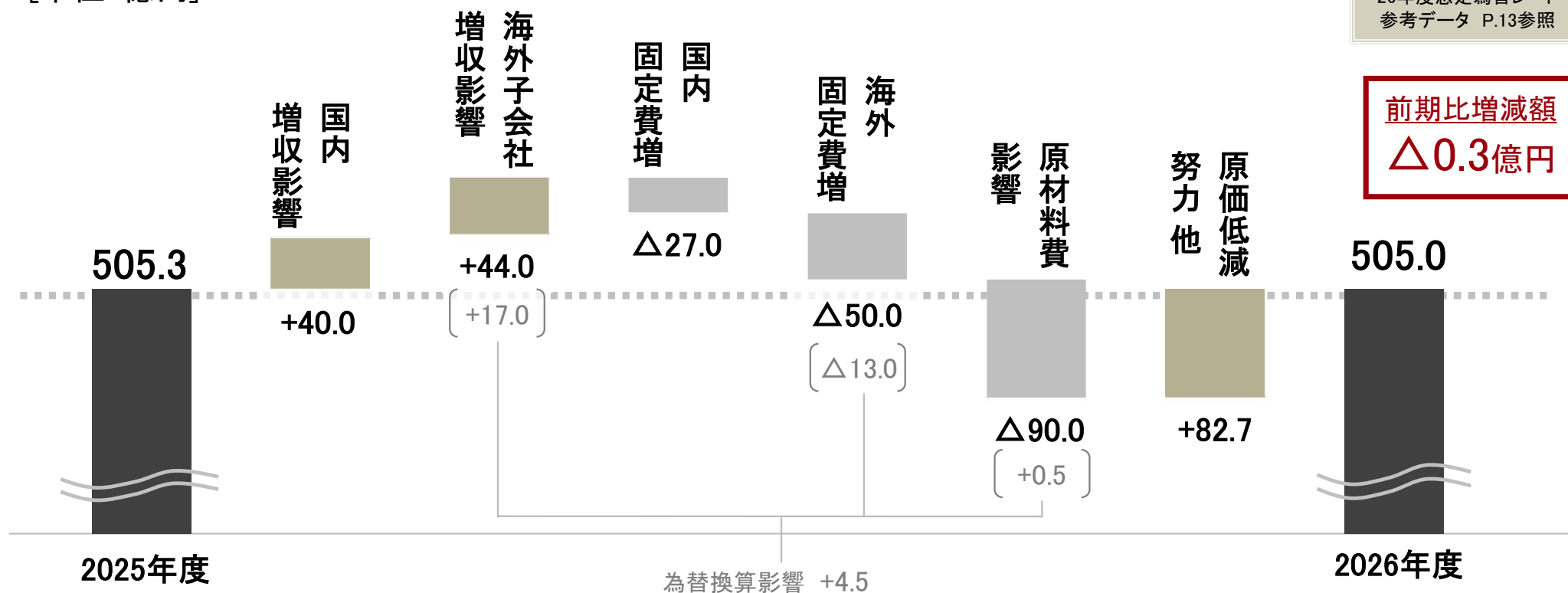
©Rinnai Corporation

2026年度 連結営業利益 増減計画

■ 国内外ともに増収計画も、大幅なコスト増の見込み、原価低減努力により利益確保を目指す

[単位: 億円]

26年度想定為替レート
参考データ P.13参照



リンナイ単体 2026年度 計画

- リフォーム市場は底堅く、市場の環境意識は今後も高まると予測
- 重点商品は新製品投入に力を入れ、さらなる拡販を目指す
- コスト環境は厳しさを増すも、高付加価値化と原価低減で増益を目指す



ビルトインコンロ



ハイブリッド給湯器



ガス衣類乾燥機



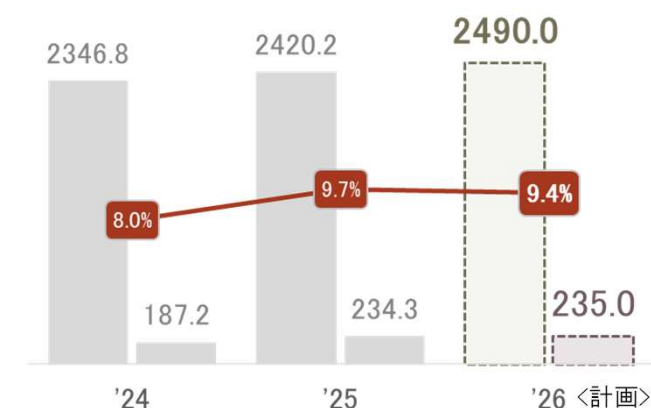
食器洗い乾燥機

(単位:億円)

	2025年度 実績	2026年度 計画	前期比増減率
売上高	2420.2	2490.0	+2.9%
営業利益	234.3	235.0	+0.3%
営業利益率	9.7%	9.4%	△0.3pt

リンナイ単体 通期 計画

■:売上高 ■:営業利益 -●-:営業利益率 (単位:億円)



(販売台数 計画:国内)

	前期比増減率
給湯暖房機	+3.0%
ハイブリッド給湯器	+15.7%
ビルトインコンロ	+1.4%
ガス衣類乾燥機	+5.9%

日本トピック 重点商品※1の販売拡大に向けて

※1 重点商品:

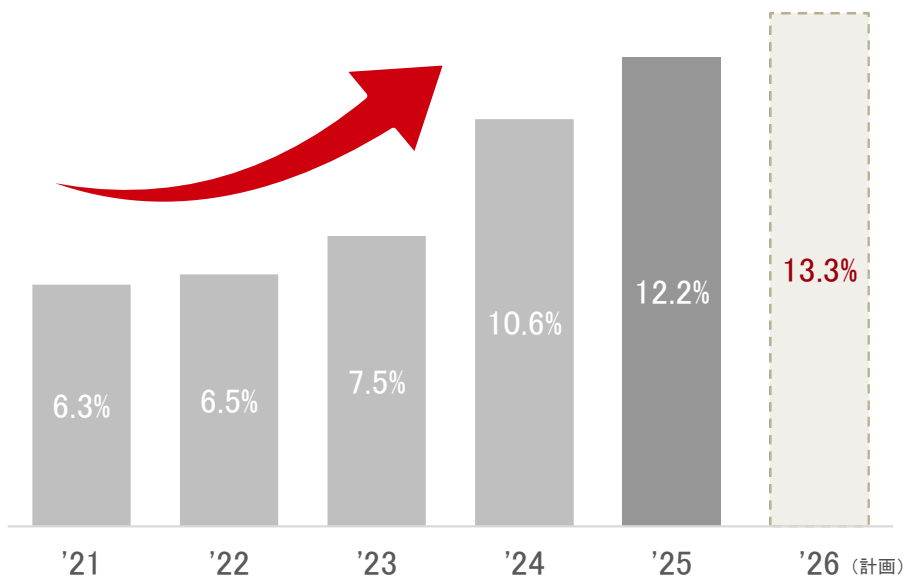
当社の販売する、消費者ニーズに適した高付加価値商品

①ハイブリッド給湯器 ②エアバブル商材 ③ガス衣類乾燥機

※2 UFB: ウルトラファインバブル

■ 新製品の投入や市場拡大を追い風に、引き続き売上利益成長をリード

■ 売上金額に占める重点商品の割合推移



人口・世帯数、新築住宅着工件数は減少傾向のなか、高付加価値な重点商品は今後も着実に増加する見込み

■ 国内販売増のドライバーとなる重点商品

ハイブリッド給湯器	補助金活用 	・新築・既築ともに補助金を活用し、購入・買替を促進 <div> <div> 省エネ住宅補助金 みらいエコ住宅 2026事業 </div> <div> 地域区分: 5~8地域 110万円/戸 </div> </div> <div> 高効率給湯器補助金 給湯省エネ 2026事業 最大12万円/戸 </div>
	エアバブル商材 	認証取得 ・ファインバブルの市場は成長中 ・UFB※2の効果判定の妥当性について、ファインバブル産業界の認証を取得 <div> 〈ファインバブル〉国内市場規模 (単位: 億円) </div> <p><small>出典: ファインバブル産業会 『ファインバブル産業の市場動向に関する調査・分析』</small></p>
	ガス衣類乾燥機 	新商品発売 ・設置バリエーションを広げる温水式を26年秋発売予定 <div> <div> ガス式 ※従来ラインアップ <div> 屋内 </div> </div> <div> 温水式 屋内専用 </div> </div> <div> 設置イメージ </div>

日本 トピック GX ZEHに向けた取り組み

■ 2027年4月のZEH基準見直し(GX ZEH)により、ハイブリッド給湯器ECO ONEの更なる販売拡大の契機

■ ZEH新基準(GX ZEH)の概要

	従来 ZEH	GX ZEH (2027年4月より)
一次エネルギー消費量 削減率(再エネ除く)	20%以上削減	35%以上削減
外皮性能	断熱等級5	断熱等級6
太陽光発電	必須	必須
必須設備	特になし	高度エネマネ(HEMS) 蓄電池

ZEH基準 一次エネルギー消費量削減率の引き上げ

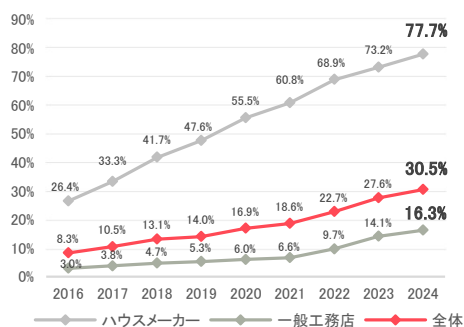


新築住宅におけるZEH/GX ZEH化率の高まり

業界トップクラスの省エネ性能 ECO ONEの販売拡大へ

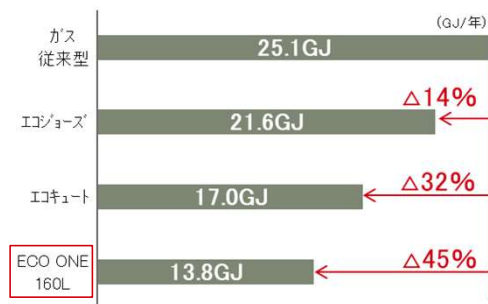


〈新築戸建住宅におけるZEH化率の推移〉



出典: 一般社団法人 環境共創イニシアチブ (SII)

〈給湯器の一次エネルギー消費量〉



※2023/4/22 第40回省エネ小委員会 当社資料より抜粋
ガス従来型はモード熱効率78.4%、エコジョーズはモード熱効率92.5%、エコキュートはJIS3.5

■ ハイブリッド給湯器の販売拡大に向けた取り組み

〈事例『Discover! Rinnai 2026』〉

各社メーカーと連携、GX ZEH普及に向けた住宅全体として必要な設備を提案する住設展示会を予定

→ECO ONEのプレゼンスを高める



リンナイアメリカ 2026年度 計画

- 継続的な改善による生産効率の向上や、ヒートポンプ給湯器のラインアップ拡充により、利益率の改善と市場シェアの拡大を目指す
- 新たな関税措置により利益にマイナスインパクトがある見込み
影響額に応じた価格転嫁も視野に入れながら、投資回収を加速させる

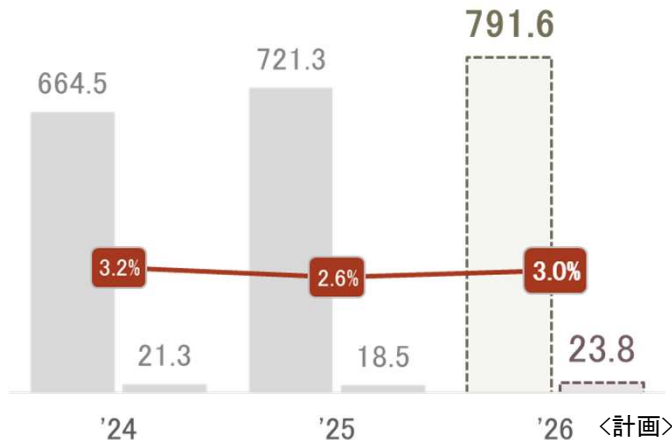


(単位:億円)

	2025年度 実績	2026年度 計画	前期比増減率	
			円 貨	現地通貨
売上高	721.3	791.6	+9.8%	+9.7%
営業利益	18.5	23.8	+28.6%	+27.8%
営業利益率	2.6%	3.0%	+0.4pt	

リンナイアメリカ 通期 計画

■:売上高 ■:営業利益 -●-:営業利益率 (単位:億円)



(販売台数 計画)

タンクレス ガス給湯器

内)コンデンシング
(高効率タイプ)

ヒートポンプ式給湯器

前期比増減率

+0.6%

+4.7%

+104.5%

上海林内 2026年度 計画

- 市況の低迷が長期化する中、
大型ネット実店舗の拡大や、ブランド認知等の積極的な施策を実施
- 継続的な固定費管理・生産性向上で利益率を維持



給湯器



ビルトインコンロ



レンジフード



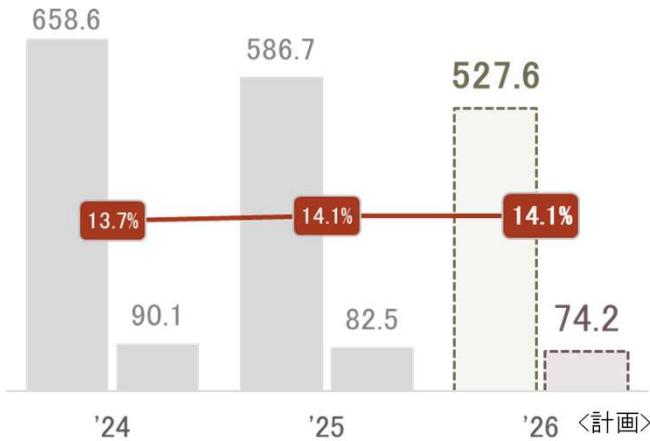
ボイラー

(単位: 億円)

	2025年度 実績	2026年度 計画	前期比増減率	
			円 貨	現地通貨
売上高	586.7	527.6	△10.1%	△13.0%
営業利益	82.5	74.2	△10.1%	△13.0%
営業利益率	14.1%	14.1%	△0.0pt	

上海林内 通期 計画

■: 売上高 ■: 営業利益 -●-: 営業利益率 (単位: 億円)



(販売台数 計画)

	前期比増減率
給湯器	△7.6%
ビルトインコンロ	△7.4%
レンジフード	+1.0%
ボイラー	△9.9%

中国 トピック 厳しい環境下での販売強化策

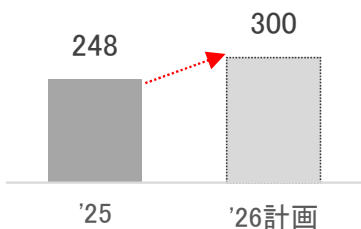
■ 市況低迷は長期化を見込むなか、戦略的な販売施策を展開

■ ネット系実店舗の販売拡大

- ・大手ECサイトが直営する大型店舗が増加見込み
- ・ネット系実店舗の小売販売を強化し、売上利益を確保

〈上海リンナイ取扱店舗数の見込み〉

※ネット系実店舗のうち大規模店舗数



大手EC「天猫」の実店舗



■ マーケティングによるブランド認知強化

- ・リンナイ独自のウルトラファインバブル給湯器を効果的にアピール
- ・消費者の共感を得る体験で、給湯器の高機能化を促進

各種広告による宣伝



UFB体験等、消費者への訴求



■ 「京東(JD.com)ランキング」での受賞

- ・販売実績や消費者評価を基にした公式ランキングにて初の受賞
- ・受賞による展示位置優遇等でブランド認知を促進

ガス給湯器分野にて初の受賞



- ・各種施策により、消費者へダイレクトに日本クオリティを訴求
- ・過去より培ったブランド力と品質の高さを、アピールし高付加価値商品の拡販につなげる

その他の主要海外子会社 2026年度 計画

(単位:億円)		2025年度 実績	2026年度 計画	前期比増減率	販売台数 計画 (前期比増減率)	
リンナイオーストラリア	売上高	441.8	496.6	+12.4%	タンクレス給湯器	△11.4%
	営業利益	24.8	33.7	+35.7%	電気タンク式給湯器	+6.2%
	営業利益率	5.6%	6.8%	+1.2pt	ヒートポンプ式給湯器	+46.1%
リンナイコリア	売上高	311.1	312.2	+0.4%	ボイラー	+13.3%
	営業利益	9.1	9.1	+0.3%	ガスコンロ	△3.5%
	営業利益率	2.9%	2.9%	△0.0pt	電気コンロ	+5.1%
リンナイインドネシア	売上高	181.4	185.4	+2.2%	テーブルコンロ	+0.8%
	営業利益	38.4	40.9	+6.5%	ビルトインコンロ	+26.6%
	営業利益率	21.2%	22.1%	+0.9pt	レンジフード	+16.6%

設備投資・研究開発

- 設備投資についてはリターンを意識し成長領域に重点的に配分
- 技術基盤を強化する研究開発投資を継続的に実施

■ 連結 設備投資/研究開発費 計画

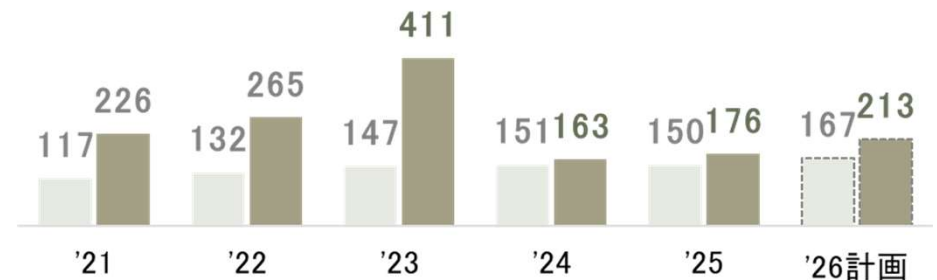
[単位:億円]	2025年度 実績	2026年度 計画	増減
設備投資	176	213	+36
減価償却	150	167	+16
研究開発費	159	170	+11

■ 2026年度の主な設備投資計画

▶海外向け電化商品の開発および生産設備への投資

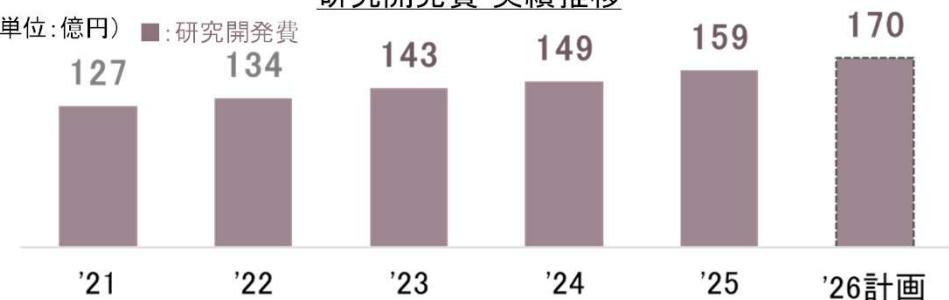
設備投資・減価償却 実績推移

(単位:億円) ■:減価償却 ■:設備投資



研究開発費 実績推移

(単位:億円) ■:研究開発費



©Rinnai Corporation

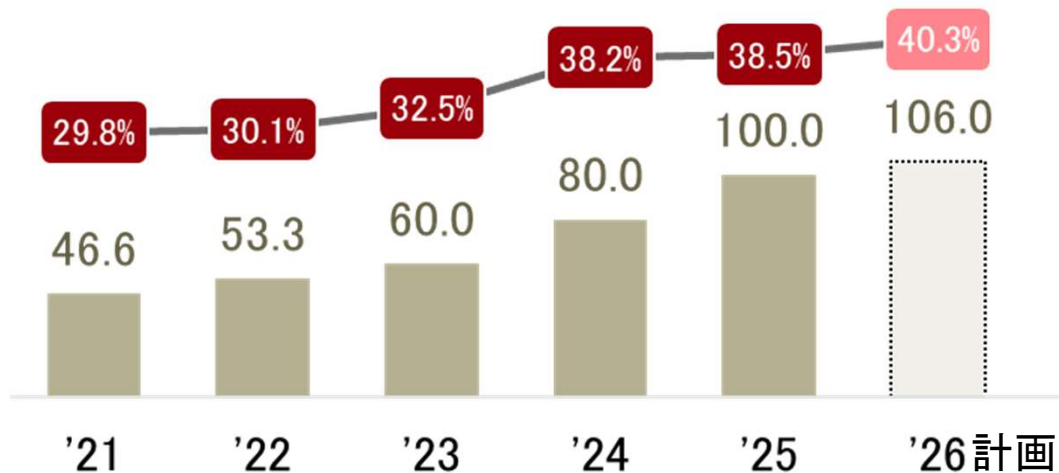
株主還元

■ 26年度は厳しい事業環境が予測されるも、安定配当を維持

■ 1株当たり配当金・配当性向予想

■ : 1株当たり配当金 (単位: 円)

■ : 配当性向



■ 26年度の配当に関して

安定的な配当を意識し、増配を予定
配当性向は約40%へ到達の見込み

■ 自社株買いに関して

資本効率の向上、資本配分、株価を意識し、
機動的に実施



Copyright (C) Rinnai Corporation. All Rights Reserved.

Rinnai